

平成28年度 連携・協力事業の実施状況について

教職大学院専門部会

【プロジェクト名】実践的指導力向上事業

1 プロジェクトの目的・概要

教職大学院専門部会は、佐賀県教育委員会と佐賀大学大学院学校教育学研究科（以下、「佐賀大学教職大学院」）の連携・協働により、「学び続ける教師」の育成を目指すとともに、佐賀県における教職員の生涯学習システムを構築していくことを目的とする。

そこで本事業では、高度専門職業人養成として教員養成に特化した佐賀大学教職大学院と佐賀県教育委員会がお互いの教育資源を有効活用しながら、佐賀県の教育課題解決に取り組む探究心の醸成や実践的指導力の向上に取り組む。

そのために、佐賀大学教職大学院から佐賀県教育委員会には「教員研修講座」を提供し、佐賀県教育委員会から佐賀大学教職大学院には「ゲストティーチャー」を派遣する。

2 平成28年度の実施状況

(1) 佐賀大学教職大学院と佐賀県教育委員会の連携による実践的指導力向上を目指す「教員研修講座」を以下のように実施した。

①本庄キャンパス「教員研修講座」(資料1)

日程：平成28年8月24日(水)9:30～16:30

会場：佐賀大学本庄キャンパス教育学部1号館2階「104講義室」

内容：講義1「算数・数学の授業づくり(米田重和教職大学院准教授)」

講義2「主権者教育と子どもの学校運営参加(平田淳教職大学院教授)」

講義3「子どものメンタルヘルスの現状(下田芳幸教職大学院准教授)」

参加：102名(延べ)

②唐津サテライトキャンパス「教員研修講座(唐津市学力向上フォーラム)」(資料2)

日程：平成28年8月2日(火)13:30～16:30

会場：唐津市民会館「大ホール」(唐津市西城内6-33)

内容：パネルディスカッション「学校・家庭・地域で子どもの学力を伸ばそう」

パネリスト：平山美代子・行徳英敏(西唐津小学校教諭)

パネリスト：伊東泰弘(鏡中学校教諭)

パネリスト：木下明子(唐津地区PTA連合会副会長)

パネリスト：山口ひろみ(唐津市子育て支援情報センター長)

アドバイザー：井上一郎(京都女子大学教授)

コーディネーター：上野景三(佐賀大学教職大学院教授)

参加：約700名

③武雄サテライトキャンパス「教員研修講座（教師力向上『武雄セミナー』）」（資料3）

日程：平成28年12月10日（土）9：30～12：00

会場：武雄市役所北方支所2階「会議室」（武雄市北方町大字志久1557）

内容：講義1「佐賀県学力向上の最新事情（上野景三教職大学院教授）」

講義2「明日からの実践のヒント『さかの体育』（堤公一教職大学院准教授）」

参加：25名

④鳥栖サテライトキャンパス「教員研修講座（教職大学院授業『学力と学習評価の研究』）」
（資料4）

日程：平成29年1月5日（木）13：30～16：50

会場：鳥栖市文化会館3階「大研修室」（鳥栖市宿町807-17）

内容：実践発表1「鳥栖市の田代中学校区における小中一貫教育及び『活用力』育成の実践研究」

発表者：中島浩貴（田代小学校教諭）

発表者：平野桃子（田代中学校教諭）

実践発表2「鳥栖市の基里中学校区における教科『日本語』を取り入れた施設分離型小中一貫教育の実践研究」

発表者：山本宗孝・岩橋ひろみ（基里小学校教諭）

発表者：奥園智恵子・武富千穂子（基里中学校教諭）

シンポジウム「鳥栖市小・中学校の特色ある教育実践に学ぶ—新たな実践の開発は、どのように可能なのか—」

シンポジスト：中島浩貴（田代小学校教諭）

シンポジスト：平野桃子（田代中学校教諭）

シンポジスト：山本宗孝（基里小学校教諭）

シンポジスト：奥園智恵子（基里中学校教諭）

シンポジスト：原里美（佐賀大学教職大学院院生：佐賀市立北川副小学校）

シンポジスト：清水皓太（佐賀大学教職大学院院生）

コーディネーター：佐長健司（佐賀大学教職大学院教授）

参加：38名

(2) 佐賀大学教職大学院授業科目へ佐賀県教育委員会の指導主事やスーパーティーチャー等を「ゲストティーチャー」として以下のように派遣した。

①後期月曜日4校時：共通必修科目「教科等におけるICT利活用の基礎と課題」

- ・第2回授業（平成28年10月17日）

授業テーマ：「学校教育における教育の情報化」

授業担当者：佐賀県教育庁学校教育課教育情報支援室 平山忠直係長

- ・第3回授業（平成28年10月24日）

授業テーマ：「ICT利活用教育の推進に関する佐賀県教育委員会の取り組み」

授業担当者：佐賀県教育庁学校教育課教育情報支援室 大家淳子指導主事

（成果）

教員研修講座においては、まず予定していた本庄キャンパスでの開催だけではなく、サテライトキャンパスのある唐津・武雄・鳥栖の各市教育委員会と連携・協働して、3つの地区すべてにおいても開催できたことは大きな成果といえる。

また、参加者の感想から、講義では現場にいるだけでは得ることのできない知見や最新の情報等に触れることができ、今後の実践へのヒントとなったことや、シンポジウムなどでは具体的な事例等を通して、自分や所属校の研究実践の意義や価値を再構築する機会となったことなど、研修に参加したことで自分が教師として学び続ける存在であることを再確認できたという声が多かった。

ゲストティーチャーにおいては、ICT利活用教育の背景や意義、加えて、佐賀県が取り組んでいる現状とその理念などについて、最前線の教育実践の現場をプロデュースしている講師からリアルに学ぶことを通して、深い学修となっていた。

そこで本事業の成果として、佐賀大学教職大学院と佐賀県教育委員会がお互いの教育資源を有効活用しながら、共に「学び続ける教員」を育むことができているといえる。

（課題）

実践的指導力向上事業として、教員研修講座の意義を高めるために、開催時期と内容等を再検討する。今年度は、初年度ということもあり講座開催日の決定が開催の2～3カ月前となってしまった。そのために、県内の各学校への周知が遅れたり、参加しやすい時期に講座を開催したりすることができなかった。次年度の開催に向けて、今年度内に教員研修実施計画案を作成し、夏休み期間や学校行事の比較的少ない時期の開催を考えていきたい。

また、研修内容についても、教職大学院のサテライトキャンパス開催という特性をさらに打ち出していきたいと考えている。現場のニーズを把握した上で、教職大学院の人材資源を有効に活用し、各地域の教育課題の解決につながる魅力ある研修内容を考えていきたい。そのために、サテライトキャンパスのある各市教育委員会との連携・協力体制を強化し、教育活動および修学活動のさらなる充実を図っていきたい。

3 今後の予定等

平成28年度については、すべての事業を終了した。次年に向けて佐賀県教育委員会及び唐津市教育委員会、武雄市教育委員会、鳥栖市教育委員会の関係者との打ち合わせを行う予定。